

「世界を視野に、自らを活かす。」

私達は、笹川平和財団・日本財団・ディレクトフォース共催 夏季プログラムに、東大見学会・企業大学訪問の初日、参加した。

夏季プログラムが催された会場は、笹川平和財団の 11F 国際会議場で、とても広く、きれいにされている場所だと感じた。改めて、とても大きな企業の施設の中にいるのだと感じた。また、会場まで案内してくださった方々や、この夏季プログラムを行う事を決めて頂いた方々といった、すべての関係者に感謝したいと思った。多くの方々のご尽力が無ければ、この貴重な体験は出来ないのだと強く感じた。

プログラムは、まず最初に『国際機関を目指す諸君に』という題名の講演から始まった。内容は日本の将来のエネルギーについてで、特に印象深かったのは、石油産出会社にとっての心配は電気自動車ということだ。私は電気自動車の開発について、今までは環境に優しいからどんどん進めるべきだと思っていただけだったが、電気自動車の利用が増加するとその分石油の需要が下がり、石油産出会社に打撃を与えるという逆の見方が語られて、私達が考える良い点や悪い点はあくまで一面的であって、他者からしてみれば全く逆であるかもしれないと感じた。

また、これから人口の多い中国・インドのエネルギー消費が増加していくことで、重化学工業がそれぞれの国で発展し、その後日本のようにサービス業が発展していくことで世界の石油消費は頭打ちになるだろうという考えや、今、日本は環境のことも考えつつ、エネルギーの将来（安定したエネルギーの供給や、その価格など）も考えなければいけないという考えが述べられた。このように様々な意見を出すには色々な方向から物事を考える力が大切で、自分にはその力がもっと必要だと感じた。

次に、グループセッションが行われた。グループセッションでは、財団と DF（ディレクトフォース）の講師の方々に参加して頂いた。合計 4 人の講師の方々と、国際関係の話題を中心に話し合った。まず、DF の講師の方と話し合った。話し合いの中に、『グローバルに』という語句が出された。私はこの語句は大切であると感じた。グローバルの意味は、グローバル+ローカル、つまり国内と海外の地域のことを指す。日本の流通などの技術は発達していて、例えばアマゾンで頼んで翌日頼んだものが来る、それくらい便利なのは日本だけで、東南アジア、中国内陸部などの地域では未発達である。この日本の技術を海外に供給することで海外に技術を認められる。このとき、日本の事（文化、技術など）をよく知って置かなければいけない。と講師の方に話して頂いた。

このように、グローバルに、視野を広く持つことは国際社会で私達日本人が活動をする際に大切だと思った。他にも、海外の方が外国人（日本人など）が働きやすいと聞き、意外に感じた。これから 2020 年の東京オリンピックなど大きな国際大会のときなどに備えて、労働者不足問題の解決が重要だと思った。

次に、笹川平和財団（SPF）の講師の方と話し合った。特に印象に残ったのは、東日本大震災の復興において、人の方が海より重要視されたということである。確かに人や生活の方が大切で、海は後回しにせざるを得ないと納得したが、一方で海についてはかなり遅れていると聞いた。これから瓦礫や放射性物質の海への流出による、被災地への国際的な恐れ、あるいは偏見（風評被害など）は残ると思うが、それに対する本格的な対策を勧めていくべきだと思った。また、日

本の海洋政策は進んでいると聞いた。日本は公害から学んで政策を整備したが、海外はまだ公害などに目が行っていないと語って頂いた。日本の様に発展途上国などで公害被害を出さない、また少なくする（中国など）ために、日本の国際的な協力が必要であると改めて感じた。

次に、DFの講師の方と話し合った。『アフリカでは病気になったら日本に帰るな』この言葉が一番衝撃的だった。日本はヨーロッパと比べてアフリカとの歴史が非常に浅く、日本に帰ってもアフリカの病気は治せず、ヨーロッパの方が治しやすいらしい。しかし、その病気に対して恐怖感はないのかお聞きすると、あると答えて頂いた。恐怖感があっても、冷静に行動することは世界が舞台でも大切だと感じた。また、挑戦することが大切で、どこでも、行ってみなければ分からないと語って頂いた。今まで、海外はテロ、感染症などマイナスな先入観が自分の中では強かったが、下調べを入念にした上で挑戦をする方が実際、わかることが多く、自分をより成長させてくれるとこの話を通じて思うことが出来た。その後、地域に合わせたマーケティングが重要と聞いたが、先進国と発展途上国の間の経済格差、また地域の環境といった要因で本当に必要とされる物は違ってくるので、行く地域のことを知る事は大切だと改めて感じた。その上で現地でのコミュニケーション、仕事を通じて更に考えていくべきだと思った。

最後に、SPFの講師の方と非営利団体について話し合った。印象的だったのが、社会全体に貢献するという事である。私達高校生はいずれ、大人になって何らかの仕事をする事になると思うが、育ててくれた社会に対して仕事で貢献することが感謝を表し、また日本、世界を、発展させることに繋がるのだと思った。

「世界を視野に、自らを生かす。」これは、この笹川平和財団・日本財団・ディレクトフォー ス共催 夏季プログラムの表題である。私は、今まで「世界」について考えるときは不安感、恐怖感がやや強かったが、今回、実際に国際的な活動経験のある方々の話を聞き、より明確な「世界」のイメージを持つことができたと思う。この経験をこれからの生活に活かしていきたい。また、このような機会はあまり無く、とても貴重であるので、そのことを強く心に刻んでこれから生活していきたい。